

いきもの図鑑

目次

植物図鑑	全	9p
とり図鑑	全	6p
むし図鑑	全	1p
爬虫類図鑑	全	1p
底生動物図鑑	全	9p
さかな図鑑	全	27p
海藻図鑑	全	3p
付着生物図鑑	全	4p
プランクトン図鑑	全	3p



目次

砂浜で見られた種

オカヒジキ	1p
オニハマダイコン	1p
ハマゼリ	2p
ハマヒルガオ	2p
スナビキソウ	3P
ハマニガナ	3P
ハマニンニク	4P
ケカモノハシ	4P
コウボウムギ	5P
コウボウシバ	5P

後背地で見られた種

エゾカワラナデシコ	6P
トベラ	6P
マルバノシャリンバイ	7P
ハマナス	7P
スナビキソウ	8P
ハマゴウ	8P
ツワブキ	9P

植物図鑑

●種名● オカヒジキ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本全土に分布する。

●形態●

1年草。茎は高さ10～40cm。根元から枝分かれして広がる。葉は肉質の刺状で長さ1～3cmあり、ヒジキに似ている。

●生育地●

海岸、砂地を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● オニハマダイコン



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北アメリカ東岸中北部原産。北海道、本州は東北および中部地方北部に分布している。

●形態●

1年草または2年草。全草多肉質で無毛、直根がある。茎は多数分枝して、枝は斜上し、高さ15～50cmになる。

●生育地●

海岸砂丘に生育する。

出典：日本の帰化植物（平凡社）

植物図鑑

●種名● ハマゼリ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本全土に分布する。日本の他、朝鮮や中国にも分布する。

●形態● 小型の2年草。根は多肉の直根で地中に深くのびる。根生葉には長い柄があり群れてつく。茎の高さは10~40cm。

●生育地● 海岸、砂地を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ハマヒルガオ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 世界中の海岸に広く分布する。日本ではほぼ全土に分布する。

●形態● つる性の多年草。白い地下茎は丈夫で砂の中を長くはい、しばしば大群落を作る。

●生育地● 海岸、砂浜を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● スナビキソウ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● ヨーロッパ、アジアの温帯に広く分布する多年草。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。

●形態● 長い地下茎を出して繁殖する。高さ30cmほどで倒被針形の葉を密につける。

●生育地● 海岸を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ハマニガナ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では本州に分布する。

●形態● 多年草。白い地下茎を長くひき、砂をかぶってもすぐのびて葉を砂の上に広げるため、葉が一行に並んでいる。

●生育地● 海岸を主な生育地とする。波打ちぎわに近い砂浜にコウボウムギやハマヒルガオ等とともに生える。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ハマニンク



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では北海道、本州、九州に分布する。

●形態●

多年草。和名は葉がニンクに似ていることによる。地下茎は太く長くはう。茎は円柱形で太く1~1.5mに達し、葉は平たく細長い。

●生育地●

海岸、砂地を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ケカモノハシ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。

●形態●

多年草。高さ30~80cmになる。カモノハシの名は、花穂が2個ぴったりついて立つ形を、カモのくちばしにたとえた物。

●生育地●

海岸、砂浜を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● コウボウムギ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本全土に分布する。

●形態● 多年草。根元の古い葉鞘の繊維が筆に似ていることから、弘法大師の筆に見立てたもの。

●生育地● 海岸、砂浜を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● コウボウシバ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本全土に分布する。

●形態● 多年草。地下茎は太くて長く、砂の中をはって節から葉や茎を出す。

●生育地● 海岸、砂浜を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● エゾカワラナデシコ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では北海道と本州の中部地方以北に分布する。

●形態● 多年草。高さ30～80cmになる。萼筒がやや短く、苞は2対あって先が尾状にとがる。

●生育地● 山野の日当たりのよい草原や河原などに生育する。

出典1：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）
出典2：山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● トベラ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では本州、四国、九州、沖縄に分布する。

●形態● 高さ2～3mになる常緑低木。葉は枝の上部に密に互生し、長さ5～10cmの長楕円形で革質。

●生育地● 暖地の海岸に多く生育する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の樹木（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● マルバノシャリンバイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では本州の山形県以西に分布する。

●形態● 高さ2～6mになる常緑低木～小高木。枝は車輪状に出る。葉は枝先に密に互生し、長さ4～8cmの倒卵形。

●生育地● 暖地の海岸に多く生育する。

出典1：山溪カラー名鑑 日本の樹木（山と溪谷社）
出典2：山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ハマナス



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では北海道、本州の太平洋側は茨城県まで、日本海側は島根県までに分布する。

●形態● 高さ1～1.5mになる落葉低木。地下茎をのばして増え、群落を作ることが多い。

●生育地● 海岸の砂地に生育する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の樹木（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● スナビキソウ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● ヨーロッパ、アジアの温帯に広く分布する多年草。日本では北海道、本州、四国、九州に分布する。

●形態● 長い地下茎を出して繁殖する。高さ30cmほどで倒被針形の葉を密につける。

●生育地● 海岸を主な生育地とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ハマゴウ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では本州、四国、九州に分布する。

●形態● 高さ30～60cmになる落葉小低木。茎は長く砂をはってのびる。葉は対生し、長さ2～5cmの楕円形または倒卵状円形。

●生育地● 海岸の砂地に生育する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の樹木（山と溪谷社）

植物図鑑

●種名● ツワブキ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

日本では本州の福島県、石川県以西、四国、九州、沖縄に分布する。

●形態●

常緑の多年草。30～70cmになる。葉はフキに似て厚く、表面につやがあるのでこの名がある。

●生育地●

海岸や海辺の山などに生育する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の野草（山と溪谷社）



目次

鳥類確認種

ウミウ	1 p
ハイタカ	1 p
シロチドリ	2 p
トウネン	2 p
ハマシギ	3 p
キアシシギ	3 p
イソシギ	4 p
オオセグロカモメ	4 p
カモメ	5 p
ウミネコ	5 p
ハクセキレイ	6 p
イソヒヨドリ	6 p

とり図鑑

●種名● ウミウ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では北海道、本州北部、本州中部から九州の日本海沿岸で繁殖し、冬は全国的に見られる。

●形態● 全長約84cm。翼開帳約137cm。頭から頸、旨、腹、尾は黒くて光沢があり、背と雨覆は緑色で羽縁は黒い。

●習性● 外海に面した沿岸の岩場や島にとまり、多くは群れを作っている。

●繁殖● 外海に面した海岸の断崖や島の岩の上に、枯枝、枯草、海藻などを使って皿形の巣を作り、5-6月に卵をうむ。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● ハイタカ



●写真●

●分布● 日本では本州以北で繁殖し、留鳥または漂鳥である。

●形態● 全長雄約32cm、雌約39cm。翼開帳62-76cm。雄の頭上から背、尾は暗青灰色で後頸には白斑がある。

●習性● 低山帯の林にすみ、秋冬には、平地の農耕地や市街地の上空を飛ぶのも見られる。

●繁殖● 本州中部以北の低山帯で繁殖する。高い木の枝上に営巣する。枯枝を主材として皿形の巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● シロチドリ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では九州以北で繁殖し、多くは留鳥である。

●形態● 全長約17.5cm。雄では額から眉斑は白く、前頭は黒色、頭頂から後頭は橙色を帯びた灰色。後頸は白い。

●習性● 海岸の砂浜、河口の干潟や三角州、埋立地の砂地、広い川の下流から中流の中洲や川原にすむ。

●繁殖● 海岸や川原の砂にへこみをつくり、小石や貝殻を敷いて巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● トウネン

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本には旅鳥として普通に渡来する。

●形態● 全長約15cm。嘴がやや太い小さなシギ。夏羽では嘴の根元は白く、頭上から顔、頸、胸は赤褐色。

●習性● 海岸や河口の干潟や入り江、海岸に近い水田やはす田、川の岸や中洲、砂浜などにすむ。

●繁殖● 日本では繁殖しない。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● ハマシギ



●写真●

●分布● 日本には冬鳥または旅鳥としてふつうに渡来する。

●形態● 全長約21cm。嘴はやや長くて少し下に曲がっている。夏羽では頭上は赤褐色で細い黒褐色の縦斑がある。

●習性● 海岸や河口の干潟、三角州、海に近い水田、埋立地の水たまり、入り江、広い川の岸や中洲などにすむ。

●繁殖● 日本では繁殖しない。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● キアシシギ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本には旅鳥として多数渡来する。

●形態● 全長約25cm。夏羽では頭上から後頸、背、肩羽、腰、尾は灰黒褐色。

●習性● 渡りの時には海岸や河口の干潟、入り江、三角州、砂浜、岩の多い磯、広い川の中州や岸などにすむ。

●繁殖● 日本では繁殖しない。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名●

イソシギ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

日本では北海道と本州で繁殖し、九州でも最近繁殖例が発見された。

●形態●

全長約20cm。頭上、後頸、背、肩羽は灰黒褐色で細かい縦斑があり、腰、上尾筒は灰黒褐色。

●習性●

繁殖期には内陸の湖岸、川岸などにすみ、非繁殖期には海岸の磯、防波堤のすそなどにも出現する。

●繁殖●

広い川原や中洲の地上に営巣する。地上に浅いへこみをつくり、枯草や枯葉を敷く。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名●

オオセグロカモメ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

日本では主として北海道で繁殖する。冬も北海道に残るものが多い。

●形態●

全長約61cm。翼開帳約135cm。背、肩羽、翼の上面は灰黒色。冬羽では頭部に褐色の斑点がある。

●習性●

夏は海岸や島の断崖、草生地などにすみ、海岸の砂浜、河口の干潟、入り江、漁港などでえさをあさる。

●繁殖●

断崖や島の草生地に集団で繁殖する。地上の枯葉、海藻、羽毛などを敷いて皿形の巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● カモメ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本には冬鳥として渡来する。

●形態● 全長約44.5cm。翼開帳約115cm。背、肩羽、翼の上面は灰色。冬羽では頭部に褐色の斑点がある。

●習性● 海岸、港湾、河口などにすみ、ウミネコ、ユリカモメなどと一緒にいることが多いが、それらより数は少ない。

●繁殖● 日本では繁殖しない。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● ウミネコ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では留鳥として一年中見られる。北海道から九州までの各地に集団繁殖地がある。

●形態● 全長約46.5cm。翼開帳約120cm。背、肩羽、翼の上面は青灰黒色。冬羽では頭部に褐色の斑点が生じる。

●習性● 繁殖期には繁殖地の島の近くにすみ、海岸、海上、水田などで、魚、両生類、イカ、昆虫などを食べる。

●繁殖● 島の岩上、草地、低木林などに集団で繁殖する。小枝、草茎、海藻、羽毛などで皿形の巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● ハクセキレイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では九州以北で繁殖する他、冬鳥として多数渡来し、冬は本州以南にふつうにみられる。

●形態● 全長約21cm。雄の夏羽で額は白く、頭頂から後頭、背、上尾筒は黒色、尾も黒くて最外側の2対は白い。

●習性● 海岸、河口、広い川の岸や中洲、水田など、低地の水辺にすむ。

●繁殖● 地上のへこみ、人家の隙間、川原の石の下などに、枯草、小枝、細根を使って皿形の巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）

とり図鑑

●種名● イソヒヨドリ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本ではほぼ全国の海岸や島に分布し、本州以南では留鳥である。

●形態● 全長約25.5cm。雄の頭部、背から上尾筒までの上面、のどから胸は青藍色。

●習性● 主として岩や断崖のある海岸や島にすみ、北海道のものは冬、移動するが、多くの地方では留鳥である。

●繁殖● 岩の割れ目、土手の穴の中、人家の隙間などに、枯草や細根を使って皿形の巣を作る。

出典：日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）



目次

昆虫確認種

スナヨコバイ 1p

むし図鑑

●種名● スナヨコバイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道と本州に分布する。

●形態● 体長（翅端まで）3.5mm。体は灰白色で、前翅には黒色～黒褐色の明瞭な斑紋を持つ。

●生活● 砂地に粗生するイネ科雑草間に生息し、砂粒と紛らわしい。近年の海岸砂浜植生の縮小・消滅によって、絶滅した産地もある。

出典1：原色昆虫大図鑑Ⅲ（北隆館）

出典2：改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-5昆虫類（環境省）



目次

爬虫類確認種	
ニホントカゲ	1 p

爬虫類図鑑

●種名● ニホントカゲ

●写真●



●分布●

北海道、本州、四国、九州と周辺の島に分布する。対馬には分布しない。伊豆諸島のものは別種。同一種はロシア沿海州に分布する。

●形態●

頭胴長60～96mm。尾はその1.5倍くらいである。体重5～18g。雄は頭部が発達し、繁殖期にのどや腹部がオレンジ色になる。

●生活●

もっともふつうに見られるトカゲ。低地から高地にまで生息する。川辺などの日当たりの良い場所を好む。

出典：日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類（平凡社）



目次

砂浜海岸で確認された種

- ヒメスナホリムシ 1p
- アゴナガヨコエビ 1p
- ヒゲナガハマトビムシ .. 2p
- スナガニ 2p

緩傾斜護岸で確認された種

- ヨメガカサガイ 3P
- ヒメクボガイ 3P
- チヨノハナガイ 4P
- イワフジツボ 4P
- イワガニ 5P

直立護岸で確認された種

- スピオ目スピオ科 5P
- オフエリア目オフエリア科 6P
- ベッコウカサガイ 6P
- フナムシ 7P

沖合いで確認された種

- シズクガイ 7P
- ミゾガイ 8P
- ヒメカノコアサリ 8P

ヘッドランド静穏域の

開口部で確認された種

- ウスハスノハカシパン .. 9P

ヘッドランドで覆われた

静穏域で確認された種

- モモノハナガイ 9p

底生動物図鑑

●種名● ヒメスナホリムシ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本各地に生息する。

●形態● 体長6mm前後。体は長楕円形。頭端に多節の長い触角をそなえ、その第2触角は体長の半ばに及ぶ。

●生活● 砂浜の波打ち際に多く、浅く砂中に潜入する。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

底生動物図鑑

●種名● アゴナガヨコエビ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州以南の日本各地に生息する。

●形態● 体長8mm。触角の鞭部は著しく発達する。第1触角は第2触角よりみじかく、副鞭を欠くが、第3柄節の下縁先端に鱗状の突起がある。

●生活● 岩場、砂場、海藻場に分布する。

出典：原色検索日本海岸動物図鑑[II]（保育社）

底生動物図鑑

●種名● ヒゲナガハマトビムシ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本各地に生息する。

●形態●

体長1～2cm前後。眼は大きく半円形。第2触角は体長の半分くらいが普通であるが、時に体長を超えるものもある。

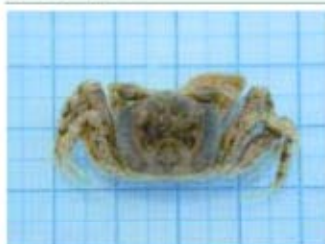
●生活●

砂浜の砂中にすみ、敏速に跳びまわる。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

底生動物図鑑

●種名● スナガニ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 富山湾及び福島県松川浦以南に生息する。

●形態●

甲長2.5cm、甲幅3cm位。甲は四角形で強く隆起し、小顆粒で蔽われ、前側隅は前方に尖る。

●生活●

砂浜の高潮帯付近に穴を掘り、砂団子を作ることはコメツキガニと同じであるが、団子や穴の大きさが大きいので区別できる。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

底生動物図鑑

●種名● ヨメガカサガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部から日本全国に分布する。

●形態●

殻長4cm内外の楕円形、笠形の貝。殻は扁平で、灰色の地に黒褐色の斑紋が不規則に散らばる。内面には強い真珠光沢がある。

●生活●

潮間帯の岩礁部でもっともふつうにみられる。波の荒いところのものは、殻は厚く、かつ殻高が高くなる傾向がある。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● ヒメクボガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州南部太平洋岸から四国九州、中国南部まで分布する。

●形態●

殻高約2.5cm。臍孔は狭く開き、その周囲は白い滑層でぬられている。

●生活●

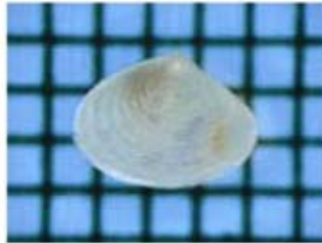
おもに外海に面した礫浜の潮下帯に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● チヨノハナガイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北海道から九州、沿海州南部、中国沿岸、東南アジアに分布する。

●形態●

殻長約2cm。殻はきわめて薄く半透明。ややふくらむ。後部は細く尖る。殻表には鈍い輪脈がある。内面は白色。

●生活●

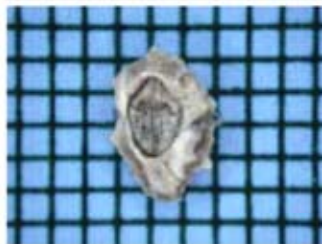
潮間帯下部から水深100mの泥底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● イワフジツボ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

本州以南の日本各地に生息する。

●形態●

直径が8mm以下と小型で、灰白色で、平たい。主壁は塊状で、周殻は6枚の殻板からなる。円錐形。

●生活●

潮間帯上部を代表する種である。高潮線付近の岩礁上に多数群生している。

出典1：原色検索日本海岸動物図鑑[II] (保育社)
出典2：原色日本海岸動物図鑑 (保育社)

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● イワガニ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 函館以南沖縄諸島までに生息する。

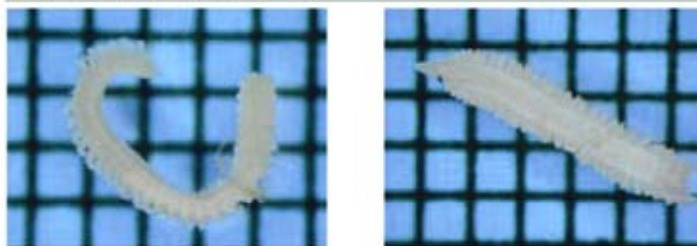
●形態● 甲長29mmまで。額は板状で幅広く、切れ込みは無い。

●生活● 各地の岩礁性潮間帯に生息する。

出典：原色検索日本海岸動物図鑑[Ⅱ]（保育社）

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● スピオ目スピオ科



●写真●

※写真は調査時に撮影した物（左：シュモクスピオ 右：ホテイスピオ）です。

●分布● 本州以南に生息する。世界共通種である。

●形態● 体長約4cm。体は細長く、円筒形で、後端で細くなり、多くの体節を持つ。第一～第三体節に計3対の鰓がある。

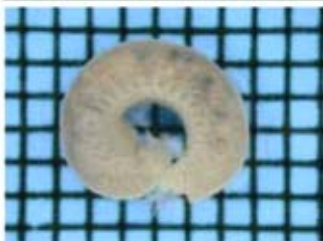
●生活● 低潮線以深の砂底～泥底に生息し、汚染の指標種として有名である。

出典：原色検索日本海岸動物図鑑[Ⅰ]（保育社）

底生動物図鑑

●種名● オフェリア目オフェリア科

●写真●



※写真は調査時に撮影した物（エソオフェリア）です。

●分布● オフェリアゴカイ科は世界に12属約150種が知られ、世界各地に分布している。

●形態●

体は円筒形で、前方で細くなり後端は裁断状で、比較的少数の体節からなる。体表は厚くて丈夫なクチクラ層を持つ。

●生活●

活発に運動し、砂泥中深く潜り込み、また良く動く。棲管は作らない。

出典：原色検索日本海岸動物図鑑[1]（保育社）

底生動物図鑑

●種名● ベッコウカサガイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部から日本全国に分布する。

●形態●

殻長4cm内外の楕円形、笠形の貝。殻は扁平で、灰色の地に黒褐色の斑紋が不規則に散らばる。内面には強い真珠光沢がある。

●生活●

潮間帯の岩礁部でもっともふつうにみられる。波の荒いところのものは、殻は厚く、かつ殻高が高くなる傾向がある。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● フナムシ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州以南の日本各地に生息する。

●形態● 体長3～4.5cm。体は長卵形で後方に向かって細くなる。

●生活● 高潮線付近の岩の間に多く、岩上をすばしこく動き回る。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

底生動物図鑑

●種名● シズクガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部から九州、朝鮮半島南岸、中国大陸沿岸、東南アジアに分布する。

●形態● 殻長約1.2cm。殻は極めて薄く、半透明で、ふくらみは弱い。殻表は平滑で光沢がある。

●生活● 潮間帯から水深約60mの泥底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● ミソガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島から九州、中国大陸沿岸に分布する。

●形態● 殻長約3.5cm。殻は極めて薄く、ふくらみは弱い。前後端は開く。内面は紅色。殻頂下の内肋は白色。

●生活● 潮間帯下部から水深50mの細砂底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● ヒメカノコアサリ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島以南からインド洋に分布する。

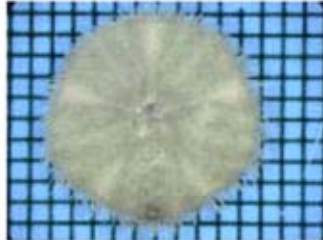
●形態● 殻長8mm、殻高7mm。卵型、殻質はやや薄い。前後端は丸い。殻表は鱗片を供えた放射肋でおおわれる。

●生活● 潮間帯下部から水深20mの砂底に生息する。

出典：日本近海産貝類図鑑 (東海大学出版会)

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● ウスハスノハカシパン



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島、紀州沿岸に生息する。

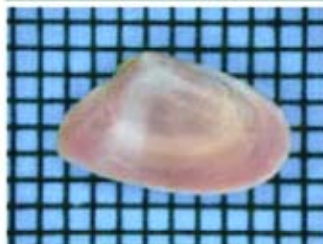
●形態● 体は非常に薄く、周辺部も中央部も厚さはほとんど変わらない。形は五角形。生時の体色は濃紫色。

●生活● 水深5～10mくらいの砂底にすむ。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● モモノハナガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島から九州、中国大陸沿岸に分布する。

●形態● 殻長約2cm。殻は薄く、ふくらみは弱い。紅色の地の殻表には、白色の放射色帯と同心円状の色帯がある。内面は紅色。

●生活● 潮間帯から水深約20mの砂泥底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)



目次

砂浜海岸で確認された種

アユ	1 p
ヒメハゼ	1 p
カズラガイ	2 p
バイ	2 p
アミメキンセンガニ	3 p
ヒラツメガニ	3 p
ガザミ	4 p
タイワンガザミ	4 p
イシガニ	5 p
マナマコ	5 p

魚類調査の為の刺網中に採取された底生動物は便宜上こちらで紹介されています。

緩傾斜護岸で確認された種

アイナメ	6 p
クジメ	6 p
アナハゼ	7 p
マアジ	7 p
クロダイ	8 p
マダイ	8 p
メジナ	9 p
イシダイ	9 p
ウミタナゴ	10 p
キュウセン	10 p
ホンベラ	11 p
ギンボ	11 p
サビハゼ	12 p
ショウサイフグ	12 p

直立護岸で確認された種

メバル	13 p
ダイナンギンボ	13 p
ビリンゴ	14 p
シマウシノシタ	14 p
クサフグ	15 p

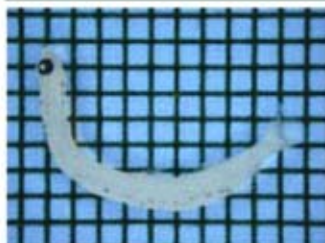
沖合いで確認された種

コモンサカタザメ	15 p
アカエイ	16 p
コノシロ	16 p
カタクチイワシ	17 p
サケ	17 p
オニオコゼ	18 p
ホウボウ	18 p
マゴチ	19 p
スズキ	19 p
シロギス	20 p
ブリ	20 p
マルアジ	21 p
アカカマス	21 p
マサバ	22 p
サワラ	22 p
ヒラメ	23 p
イシガレイ	23 p
ササウシノシタ	24 p
クロウシノシタ	24 p
アカシタビラメ	25 p
アミメハギ	25 p
ウマズラハギ	26 p
ヒガンフグ	26 p
シマフグ	27 p

さかな図鑑

●種名● アユ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北海道西部～南九州、朝鮮半島～ベトナム国境近くまでの
中国大陸沿岸部と台湾に分布する。

●形態●

体長30cm。仔稚魚期はイワシ類などのシラス型を呈す
る。

●生活●

アユの海域での生活は仔稚魚期に限られる。砂浜海岸の碎
波帯などのごく浅海域に生息する。

●食性●

海域では摂餌は昼間だけ行う。主に浮遊性カイアシ類である。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ヒメハゼ

●写真●



●分布●

宮城県・山形県以南の本州、四国、九州、琉球列島に分布
する。

●形態●

体長8cm。下あごが上あごより突出している。体の前半に
比べて尾柄が著しく細い。

●生活●

河口域やそれに続く前浜干潟に生息する。砂底を好む。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

底生動物図鑑

●種名● カズラガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島以南、台湾に分布する。

●形態●

殻高約7.5cm。肩角にとげ状の結節列があり、また縦張肋がある。体層には大きい格子目状または帯状の黄灰色斑がある。

●生活●

水深10～50mの砂底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● バイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部～九州、朝鮮半島に分布する。

●形態●

殻高7cm。殻は厚く平滑で、白地に褐色斑列がある。殻口内は淡い青色を帯びた白色。

●生活●

潮間帯より水深10mの砂底にすむ。普段は底質中にひそみ、水管のみをだしている。

出典1：日本近海産貝類図鑑（東海大学出版会）
出典2：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

底生動物図鑑

●種名● アミメキンセンガニ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島以南沖縄諸島までに分布する。

●形態● 甲長4cm。甲は丸い。甲色は暗紫色の網目状紋様。全脚共に汚黄色。

●生活● 潮間帯から潮下帯にかけての砂底に生息する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

底生動物図鑑

●種名● ヒラツメガニ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道忍路湾、函館から沖縄諸島までに分布する。

●形態● 甲長5.3cm。甲は扇型で丸みを帯び、中央にH字状の溝が明瞭に刻まれる。

●生活● 浅海の砂・泥底に生息する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● ガザミ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 函館から九州までに生息する。

●形態●

甲長85mmまで。額に3棘あり、中央の歯がやや小さい。体色は甲の周辺と鋏脚全節及び泳脚の大半は暗紫色の地に白斑が雲紋状に散布する。

●生活●

各地浅海の砂泥底に生息する。河口に近い砂底にすみ、夜間泳ぎで活動する。

出典：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

🦀 底生動物図鑑 🦀

●種名● タイワンガザミ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

相模湾以南の太平洋岸、山形県以南の日本海岸、沖縄諸島に分布する。

●形態●

甲長6.4cmまで。甲面は小顆粒を密布する。

●生活●

浅海の砂・砂泥底に生息する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）

出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

底生動物図鑑

●種名● イシガニ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 房総半島から九州までの各地沿岸に分布する。

●形態● 甲長6.2cm。甲面は短毛で覆われる。

●生活● 内湾の潮間帯・潮下帯の岩礁底・礫底・砂底に生息する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

底生動物図鑑

●種名● マナマコ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 千島より九州南端にいたる日本各地に生息する。

●形態● 体長20～30cm。幅6～8cm位が普通。体色は大体2型あって、濃淡の栗色か、暗黄緑から暗黒。腹面はいずれも赤色を帯びている。

●生活● 浅海にすみ、昼夜を問わず食物をとるが、夏季は通常休眠する。骨片は櫓状体を主とするも、成長にしたがって形に変化を生ずる。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

さかな図鑑

●種名● アイナメ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本沿岸各地、朝鮮半島南部及び黄海に分布する。

●形態● 体長65cm。体色は一般に淡褐色～茶褐色だが、生息場所により暗緑色や灰色などに变化する。

●生活● 底生性で沿岸の岩礁域や砂利底に生息する。単独生活をする。

●食性● フレカラ類、ヨコエビ類、ゴカイ類、小形魚類などを食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● クジメ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本沿岸各地、朝鮮半島南部及び黄海に分布する。

●形態● 体長30cm。体色は一般に暗褐色で、体側に小さい白斑をともなう。

●生活● 藻場やその周辺に生息する。一般にアイナメより浅い場所にすむ。

●食性● フレカラやヨコエビなどの小形甲殻類を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● アナハゼ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南西部以南に分布する。

●形態● 体長21cm。体は細長く側扁する。吻は細くとがる。体表は滑らかで、脇部の小鱗と皮下の側線鱗以外の鱗はない。

●生活● 潮間帯、浅海の岩礁域や藻場に生息する。

●食性● 肉食性で小形甲殻類などを捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● マアジ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南の日本各地、朝鮮半島、台湾、黄海、東シナ海、南シナ海の大陸沿岸に分布する。

●形態● 体長40cm。体は細長く側扁する。背方は暗青褐色から黄褐色。腹方は銀白色。

●生活● 回遊性で、主に沿岸からやや沖合いの中底層に生息する。

●食性● 成魚ではイワシ類やキビナゴ、オキアミ類、プランクトン甲殻類、イカ類などを捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● クロダイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南、朝鮮半島南部、中国の渤海、黄海、台湾に分布する。

●形態● 体長60cm。体は楕円形でよく側扁する。吻はややとがる。体色は銀白色または暗灰色。

●生活● 水深50m以浅の内湾、沿岸岩礁域、藻場や砂泥地、河口域などに広く分布する。

●食性● 成魚は小型甲殻類から多用な大型の動物を餌にするが、海藻類も食べ、貪食で雑食性が強い。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● マダイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南の日本周辺海域、尖閣諸島、朝鮮半島南部、黄海、東シナ海、南シナ海に分布する。

●形態● 体長100cm。体は楕円形で強く側扁する。体は淡紅色で胸鰭は長い。

●生活● 稚幼魚期には内湾や沿岸の藻場や砂礫地で生育する。

●食性● 摂餌は午前中で、甲殻類、貝類、イカ類、小魚などを主に捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● メジナ



●写真●

●分布● 北海道南部以南、東シナ海、台湾に分布する。

●形態● 体長60cm。体高が高く、よく側扁する。各鱗の基部に暗色点がある。

●生活● 代表的な磯魚で、各地の海岸でおなじみである。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● イシダイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本各地（西日本に多い）、韓国、台湾に分布する。

●形態● 体長80cm。両顎の歯は癒合して嘴状となり、これで硬い貝類や甲殻類もたやすく噛み砕く。

●生活● 浅海の岩礁域にすむ。若魚は好奇心が強く、ダイバーの姿を見に近づいてくる事が良くある。

●食性● ウニなど、かたい殻や甲をもった底生動物を好んで食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ウミタナゴ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道中部～九州の日本各地、朝鮮半島南部に分布する。

●形態● 体長30cm。体はタイ型でよく側扁し、柔らかい円鱗をこむる。腹鰭基部のうろ色点が特徴である。

●生活● 浅海の岩礁域にすむ。胎生する魚として有名。

●食性● 肉食魚で、多毛類・甲殻類など小形の底生動物を主食とする。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● キュウセン



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 函館以南（沖縄県を除く）、朝鮮半島、シナ海に分布する。

●形態● 体長34cm。体は一般に細長くて側扁し、円鱗でおおわれる。

●生活● やや内湾性で、岩礁のまわりや転石の多い砂底にすむ。低温期は砂中に潜って冬眠する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ホンベラ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

下北半島及び佐渡島以南（沖縄県を除く）、東シナ海、フィリピンに分布する。

●形態●

体長18cm。雌や幼魚の体は淡緑色が普通だが、紅藻類の茂みにいるものは赤みが強い。

●生活●

内湾性で、海藻が茂った岩礁付近に多い。温帯の環境によく適応した種類である。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ギンポ

●写真●



●分布●

北海道南部～長崎県に分布する。

●形態●

体長30cm。眼下に暗色横帯がある。胸鰭と尾鰭は橙色。

●生活●

潮間帯～水深約70cmの砂泥底や岩礁域の藻場に生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● サビハゼ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 青森県～九州、朝鮮半島に分布する。

●形態● 体長15cm。下顎から咽頭部にかけて多数のヒゲを持つこと、胸鰭上部に遊離軟条を持つことで他種と区別できる。

●生活● 浅海の砂底に生息する。全長5cmまでの幼魚は中層に群れているが、成魚では底生生活が主となる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ショウサイフグ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 岩手県以南、東シナ海に分布する。

●形態● 体長30cm。体は円滑で小棘は無い。体背方は不規則な褐色模様に覆われ、腹方は白色。

●生活● 水深100m以浅に生息する。沿岸性である。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● メバル



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部～九州、朝鮮半島南部に分布する。

●形態● 体長25cm。涙骨の下縁に後下方を向く鋭い2棘がある。

●生活● 卵胎生。水温が10度以下になると深みで越冬する。

●食性● 成魚は小形の魚類、等脚類、端脚類、エビカニ類、巻貝、多毛類などを食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ダイナンギンポ



●写真●

●分布● 形態的にやや異なる地理的二型（Form AとForm B）がある。Aは本州中部以南の太平洋岸、瀬戸内海、黄海、渤海に分布し、Bは積丹半島以南の日本海側、津軽海峡沿岸、岩手県、島原半島及び朝鮮半島に分布する。

●形態● 体長28cm。体は暗緑褐色。背鰭の棘条の後方に棘よりやや長い軟条がある。体全体に網目状の側線が走る。

●生活● 岩礁域の潮間帯に生息し、石の下や岩の間に潜む。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ピリンゴ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道、本州、四国、九州に分布する。

●形態● 雌は体長5cm程度で、雄は雌より小さい。ジュズカケハゼに酷似する。背側が淡褐色、腹側が白色。

●生活● 川の感潮域の泥底から砂泥底にすむ。同様な条件を揃えた汽水域にも生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● シマウシノシタ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部以南、インド・太平洋の暖海域に分布する。

●形態● 体長25cm。体は側扁し、眼は体の右側にある。有眼側は黄褐色で、約12対の黒褐色の横帯がある。

●生活● 水深100m以浅の砂泥域に生息する。

●食性● 端脚類などの小型甲殻類、多毛類などを捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● クサフグ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 青森県～沖縄に分布する。

●形態● 体背方は暗緑色で多数の白色点が散在する。胸鰭後方の体側に大きな黒色斑がある

●生活● 水深50m以浅に生息する。内湾の岩礁域、砂礫底、藻場に生息する。砂に潜る習性がある。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● コモンサカタザメ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本～南シナ海に分布する。

●形態● 吻は三角形状であり尖らない。背面は黄褐色で暗茶褐色の小斑点がある。

●生活● 沿岸の砂底に生息する。砂中に埋もれて生活する。

●食性● 甲殻類、魚類などを食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● アカエイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本沿岸、朝鮮半島、台湾、中国沿岸に分布する。

●形態● 体盤幅50cm。体盤背面は褐色、体盤腹面は淡色で黄色斑が散在する。

●生活● 海底で砂に潜り、目を出し、尾を斜め上方に立ててじっとしている事が多い。

●食性● 砂泥底に隠れる甲殻類や多毛類など底生性の無脊椎動物を好む。成魚は小型魚類も捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● コノシロ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 新潟県・仙台湾以南、朝鮮半島、台湾、南シナ海北部に分布する。

●形態● 標準体長25cm。口は端位で、上顎の後端は眼の中央を越えない。背鰭の最後軟条は糸状に伸びる。

●生活● 河口域や内湾に生息する。4～5月頃、河口域で日没後に産卵する。

●食性● 主に珪藻やカイアシ類などのプランクトンを食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● カタクチイワシ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南、朝鮮半島～南シナ海北部に分布する。

●形態● 標準体長14cm。体は細長く、円筒形に近い。

●生活● 沿岸から沖合いの表層を群泳して過ごす。産卵期は周年であるが、春と秋に盛期となる。

●食性● カイアシ類や珪藻などのプランクトンをろ過摂食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● サケ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 索餌回遊域は日本海と北緯42度以北の北太平洋。

●形態● 体長100cm、体重10kgになるが通常は75cm、4kg前後。

●生活● 海洋に最も適応した種で、淡水域での生活時間は短く、生活史の大半を海で過ごす。

●食性● オキアミなどを食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● オニオコゼ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州中部以南、朝鮮半島南部、華南に分布に分布する。

●形態● 体長25cm。鱗が無く、背鰭が眼の後ろから始まる。背鰭の棘に猛毒がある。

●生活● 水深200cm以浅の砂泥底に生息する。

●食性● 小型魚類を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ホウボウ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部以南、黄海、東シナ海、南シナ海に分布する。

●形態● 体長40cm。体上半部は灰褐色地に不規則な赤色斑が広がる。体下半部は白色。

●生活● 水深25～615mの砂泥底にすむ。仔稚魚は浮遊生活をするが、やがて着底生活に入る。

●食性● 肉食性でエビ類を最も好み、他にカニ類やシャコ類、底生性の小魚を捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● マゴチ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本に分布する。

●形態● 体長100cm余りに成長する大型種。体は著しく縦扁する。

●生活● 5～7月に接岸して浅海の砂場で産卵する。仔魚は1.8mm程で、15mmから底生生活に移行する。

●食性● 小型の底生魚類、エビ・カニ類、イカ・タコ類などを捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● スズキ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部以南の日本沿岸、朝鮮半島南部に分布する。

●形態● 体長100cm。体が延長し、側扁する。若魚は体側に黒色斑があるが、成長とともに消失する。

●生活● 産卵期は冬。稚魚は春に沿岸浅所や内湾に入り、夏には沿岸から汽水域さらに淡水域に入る。

●食性● 主に魚類や甲殻類を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● シロギス

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北海道北部と沖縄を除く日本各地、東シナ海、台湾に分布する。

●形態●

体長35cm。体は細長く円筒状でやや側扁している。体色はあめ色、腹鰭と臀鰭前部は半透明な白色。

●生活●

内湾～沿岸の砂底に生息する。海底から上方約16cmまでの間にすむが、地形の変化に富む所に多い。

●食性●

甲殻類やゴカイ類を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ブリ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

主生息域は北海道南部～九州、朝鮮半島東岸、沿海州南部である。

●形態●

体長120cm。体はやや細長く紡錘形で太い。背方は青緑色、腹方は銀白色。

●生活●

沿岸性の回遊魚で、やや沖合いの中底層に生息する。南方では瀬付きも多い。

●食性●

肉食性で、成魚はほぼ完全な魚食性である。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● マルアジ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本、東シナ海に分布する。

●形態● 体長30cm。尾鰭は淡黄色～淡紅色。小離鰭がある。頭頂鱗は眼の中央を越える。

●生活● 内湾からやや沖合いにすむ。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● アカカマス

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 琉球列島を除く南日本、東シナ海～南シナ海に分布する。

●形態● 体長30cm。胸鰭を通る1縦帯があり、鱗のきめが粗い。

●生活● 沿岸浅所に生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● マサバ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 全世界の亜熱帯・温帯海域に分布する。

●形態● 体長50cm。体はゴマサバより側扁する。腹側にゴマ状の斑点は無い。

●生活● 大群をなして沿岸表層域を回遊する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● サワラ

●写真●



※この写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本～東シナ海に分布する。

●形態● 体長100cm。

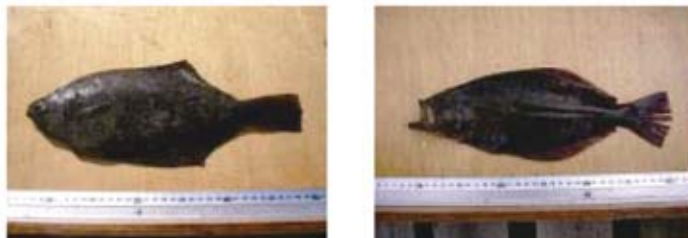
●生活● 沿岸表層性。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ヒラメ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

日本各地（沖縄県を除く）サハリン、千島～朝鮮半島を経て香港近くの海域に分布する。

●形態●

体長80cm。両眼は体の左側に位置する。口が著しく大きく、眼の後縁下近くまで開く。

●生活●

成魚は100m～200mの砂泥底域に生息する。

●食性●

食性は肉食性。魚類、イカ類、甲殻類などを好む。水温26℃前後になると食べなくなる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● イシガレイ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

日本各地、千島列島、樺太、朝鮮半島、黄海に分布する。

●形態●

体長50cm。体の両側に鱗が全く無く、滑らかである。

●生活●

沿岸浅所から水深100mまでの砂泥底に生息するが、隣接した淡水域にも入る。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ササウシノシタ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北海道と東北地方を除く日本各地、東シナ海、黄海に分布する。

●形態●

体長16cm。眼は体の右側にある。有眼側は灰褐色の地に黒と白の斑点が散在する。

●生活●

浅海の砂底域に生息する。眼だけを出して砂中に潜んでいることが多い。

●食性●

小形のエビ・カニ・端脚類やハゼ類の幼稚魚など海底表面の小動物をえさとしている。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● クロウシノシタ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布●

北海道小樽以南、黄海、東シナ海、南シナ海に分布する。

●形態●

体長35cm。体は長楕円形。両眼は体の左側にあり、有眼側は黄褐色や青褐色、無眼側は白色。

●生活●

水深20～65mの沿岸の浅海や内湾の砂泥底に生息する。

●食性●

成魚は小型の甲殻類、二枚貝類、多毛類等を捕食する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● アカシタビラメ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 南日本、黄海～南シナ海に分布する。

●形態● 体長25cm。有眼側の側線は3本、口の後縁は下眼後縁を越える。

●生活● 水深20m～70mの砂泥底に生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● アミメハギ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 青森県以南の日本各地、朝鮮半島南部に分布する。

●形態● 体長8cm。体は強く側扁する。腰骨後端の鞘状鱗は2節に分かれ、不動性。雄の尾柄には剛毛がある。

●生活● 水深20m以浅の沿岸に生息する。沿岸の藻場や岩礁域に生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ウマズラハギ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 積丹半島、相模湾以南、東シナ海・南シナ海に分布する。

●形態● 体長30cm。体は強く側扁し、やや長い。体は灰褐色で多数の不定形暗色斑がある。

●生活● 水深20m以浅の沿岸、沿岸の藻場や岩礁域に生息する。

●食性● 小型甲殻類など底生動物を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● ヒガンフグ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南の日本、東シナ海、黄海に分布する。

●形態● 体長25cm。皮膚の表面をいぼ状の突起がおおう。体背方は淡褐色で黒色斑が散在する。

●生活● 水深100m以浅に生息する。ホンダワラの生えている沿岸の岩礁や藻場に生息する。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）

さかな図鑑

●種名● シマフグ

●写真●



※この写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 相模湾以南の日本、東シナ海、黄海に分布する。

●形態● 体長50cm。体は小棘におおわれる。体背方に紺色の帯が数本斜走する。鱗は全て黄色。

●生活● 水深200m以浅に生息する。幼魚は内湾の砂泥底に生息する。成魚になると岩礁域に移る。

●食性● 甲殻類、イカ類、クモヒトデ類、魚類を食べる。

出典：山溪カラー名鑑 日本の海水魚（山と溪谷社）



目次

海藻・海草類確認種

アナアオサ	1p
ワカメ	1p
ピリヒバ	2p
ヒラムカデ	2p
ユナ	3P
ソゾ属	3P

海藻図鑑

●種名● アナアオサ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本及び隣接区域の全沿岸に広く分布する。

●形態● 体は大型、高さ20～30cm。時にそれ以上になり、横にも広くなる。中帯部はみられず多く穴をもっている。

●生育地● 潮間帯下部の主として岩面上に大きな群落を作っている。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）

海藻図鑑

●種名● ワカメ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州太平洋岸、八丈島、瀬戸内海、九州西岸、九州北岸、本州日本海岸（越後まで）、朝鮮半島に分布する。

●形態● 根は繊維状、茎は扁円。葉は左右に羽状裂片をもつ。中肋を持っている。子囊群はいわゆるメカブの上に作られる。

●生育地● 低潮線付近から漸深帯にかけての岩上に生ずる。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）

海藻図鑑

●種名● ピリヒバ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本各地に分布する。

●形態● 体は叢生。3、4cm。小柄で節間部が短く、枝は密に出る。

●生育地● 潮間帯下部に繁茂する。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）

海藻図鑑

●種名● ヒラムカデ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州太平洋岸、八丈島、瀬戸内海、本州日本海岸北中部に分布する。

●形態● 体は叢生。単条の事もあるが、下部で何回か叉状に分岐することが多い。高さは時に30cm位にもなり、巾1cm。主たる部分に枝が極めて少ない。

●生育地● 潮間帯の岩上に生ずる。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）

海藻図鑑

●種名● ヲナ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南の日本各地に分布する。

●形態● 体は円柱状。時に扁円。羽状に分岐する。高さ10~20cm。太さ2~5mm位。

●生育地● 潮間帯下部の岩上に生ずる。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）

海藻図鑑

●種名● ソソ属



●写真●

※写真は調査時に撮影した物（コブソソ）です。

●分布● 本州太平洋岸中部に分布する。最も普通の種である。

●形態● 体は10cmまたはそれ以上となり、しばしば巾広く5mm以上にもなる。両縁から羽枝を出し、それらの羽枝は生長して瘤々に集まる。

●生育地● 潮間帯最下部の岩上に生ずる。

出典：原色日本海藻図鑑（保育社）



目次

付着生物確認種

ムギガイ	1 p
ムラサキイガイ	1 p
エゾカサネカンザシ	2 p
サンカクフジツボ	2 p
シリケンウミセミ	3 p
ヒゲナガヨコエビ科の一種	3 p
モクスヨコエビ科の一種	4 P

付着生物図鑑

●種名● ムギガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道南部以南、九州、朝鮮半島、中国に分布する。

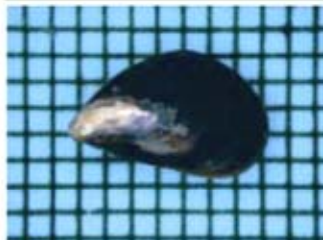
●形態● 殻高約9mm。殻は厚く、紡錘型で平滑。殻口は狭く、外唇内壁に小歯状のひだがある。

●生活● 潮間帯から水深約100mの岩礫底に生息する。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

付着生物図鑑

●種名● ムラサキイガイ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● ヨーロッパ原産。日本を含む世界中の温帯域に分布する。別名ムールガイ。

●形態● 殻長約7cm。殻は薄く、ふくらむ。亜三角形で、殻頂部はとがり、腹縁はわずかに張り出す。外面は黒紫色。

●生活● 潮間帯から水深約20mの岩礁に足糸で付着している。内湾的な環境を好む。

出典：世界文化生物大図鑑 Illustrations of animals and plants 貝類
(株式会社 世界文化社)

付着生物図鑑

●種名● エゾカサネカンザシ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 日本では九州以北に分布する。

●形態● 棲管の直径約3mm。殻蓋は盃状体の上に、ほとんど放射相称形の上部盃状体を持つ。

●生活● 岩礁性海岸の浅海の岩や貝殻などの上に群棲する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑[Ⅱ]（保育社）

付着生物図鑑

●種名● サンカクフジツボ



●写真●

※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 本州以南の暖流域に生息する。

●形態● 直径1.5cm程の大きさで、赤またはピンク色の地肌に白色の肋をもち、背板の太い距が特徴的である。

●生活● 低潮線から4000mを越す深海底の海や岩などに、また浮遊しているフイなどにも付着する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑[Ⅱ]（保育社）

付着生物図鑑

●種名● シリケンウミセミ

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 北海道以南の日本海沿岸、太平洋沿岸、中国、朝鮮半島に分布する。

●形態● 体長雄7mm、雌はやや小形。体は黄色、黄緑色、褐色など変異がある。

●生活● 潮間帯～亜潮間帯の海藻の間、石の下、波消しブロックの隙間にすむ。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

付着生物図鑑

●種名● ヒゲナガヨコエビ科

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 世界に14属、日本には3属が知られている。

●形態● 第2咬脚の性差が著しく、雄では種の特徴を良く示すが、雌での種の判別は困難である。第3尾肢の外枝先端に1対の鉤状棘を備える。

●生活● 主として海藻上に巣を作る。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）

付着生物図鑑

●種名● モクスヨコエビ科

●写真●



※写真は調査時に撮影した物です。

●分布● 世界に7属、日本には3属が知られている。

●形態●

第1触覚は第2触覚の柄部より長く、その鞭部は柄部より長い。第2小顎の鞭肢は退化傾向にあり、通常1節、2節の場合はその基節は著しく小さい。顎部鞭肢の第4節は爪状で大きい。第3尾肢は通常単枝であるが、双枝の場合は、内枝が鱗状で小さい。

●生活●

各地の海藻場、転石等に生息する。

出典1：原色日本海岸動物図鑑（保育社）
出典2：原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕（保育社）



目次

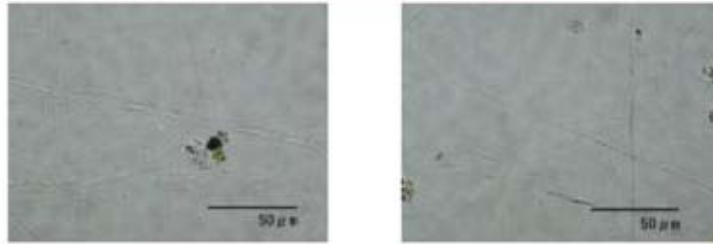
プランクトン確認種

- ニッチア属の数種 1p
- キートケロス属の数種 1p
- Chaetoceros sociale* 2p
- カイアシ類(ノープリウス幼生) 2p
- パラカラヌス科(コペポデイド幼生) 3P
- ユウテルピナ属(コペポデイド幼生) 3P

フランクトン図鑑

●種名● ニッチア属

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類● 珪藻綱 羽状目 ニッチア科

●解説●

珪藻綱は、内陸の湖沼や河川のような淡水域に生息している種も少なくないが、塩分が20~30‰である海洋の沿岸で、春から秋にかけて適度の水温と陽光による光合成によって繁殖するものが非常に多い。単細胞で、細胞膜はペクチン質を基本とした、珪酸化合物を含み、いずれも被膜を形成している。被膜はあたかも弁当箱の蓋と実のようになっていて、その中に1個の核と葉緑素、葉黄素、珪藻素などの色素を含む有色体を有する。したがって生態時は黄色から黄褐色また黄緑色を呈する。（珪藻綱の解説）

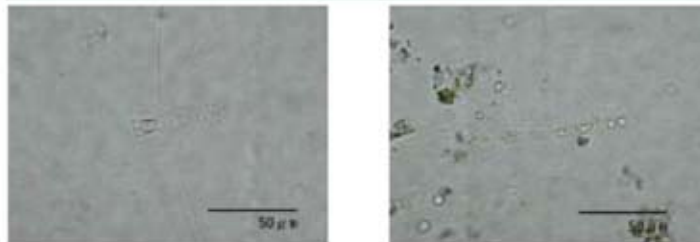
この科の縦溝は通常蓋殻縁に近い竜骨上にあるが、なかにはこれが頂軸上にあるものがある。縦溝は蓋殻の一端から他端に向かって縁に沿って走るが、通常は翼管上には持ち上げられていない。（ニッチア科の解説）

出典：日本産海洋フランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクトン図鑑

●種名● キートケロス属

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類● 珪藻綱 円心目 キートケロス科

●解説●

円心目の各種の蓋殻の構造の中心は、通常“点”である。増大胞子の形成は、雌雄の別が明らかな卵生殖による。（円心目の解説）

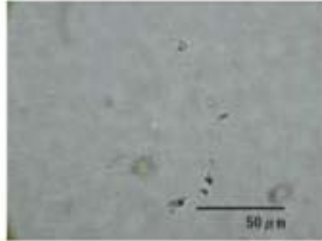
キートケロス科に属する物は100種以上もある。単体性の種は少なく、多くは連鎖状の群体をつくる。（キートケロス科の解説）

出典：日本産海洋フランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクton図鑑

●種名● Chaetoceros sociale

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類● 珪藻綱 円心目 キートケロス科

●解説●

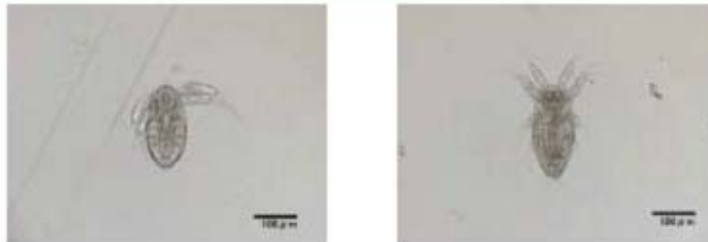
群体は比較的短く、湾曲しているが、特殊な長い刺毛と粘液質によって多数の細胞が集合して不定形の球体群集をつくる。単独の細胞の蓋殻の頂軸の長さは4-15 μ mで、細胞間隙は適度に広がった長形で、中央部は少し狭くなっている。蓋殻はほとんど平坦である。本種は北半球の沿岸にあって、春期に多く見られ、多数の細胞が密集して群体を作る。(Chaetoceros socialeの解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクton図鑑

●種名● カイアシ亜綱（ノープリウス幼生）

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類● アゴアシ綱カイアシ亜綱の一種 ノープリウス幼生（最も初期の幼生）

●解説●

カイアシ亜綱は10目8000種以上からなり、体長は通常0.3-10mm程度であるが、寄生性のものには30cmにも達する物がある。海洋、淡水域において自由生活を営むほか、魚類及び無脊椎動物に寄生あるいは片利共生するものも多い。(カイアシ亜綱の解説)

卵から孵った直後の甲殻類の最も基本的な幼生である。通常6期あり、脱皮をして成長する。(ノープリウス幼生の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクton図鑑

●種名● パラカラヌス科 (コペポディド幼生)

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類●

アゴアシ綱 カラヌス目 パラカラヌス科 コペポディド幼生 (二次幼生)

●解説●

0.4-1.5mmと小型で、前体部は楕円形または卵円形で前端はまるく、後端もまるい。1対の吻糸をもつ。頭部と第1胸節は融合、第4と第5胸節は分離または融合する。雄の頭部背面に瘤上の突起 (背瘤) をもつことがある。(パラカラヌス科の解説)

通常、ノープリウス幼生が6回脱皮をすると、コペポディド幼体に変態する。さらに5回の脱皮を繰り返して成長し、最終的に成体になる。幼体は基本的に成体と類似した形態を持つが、通常、体節、付属肢の節や刺毛・棘、生殖器官が未完成である。(コペポディド幼生の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説 (東海大学出版会)

フランクton図鑑

●種名● ユウテルピナ属 (コペポディド幼生)

●写真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分類●

アゴアシ綱 ソコミジンコ目 カワリソコミジンコ科 コペポディド幼生

●解説●

海産、淡水産、陸生を合わせて約3300種が知られている。海産のもの大部分は底生性であり、一部のものが浮遊性、寄生性、葉上性である。また、流れ藻や流木などの漂着物に生息する物もいる。(ソコミジンコ目の解説)

1属1種。第2触角外肢は1節。第1胸肢は内・外肢とも2節、内肢は捕捉型ではない。第2胸肢内肢は雌は3節、雄は2節。第3,4胸肢内肢は3節。(ユウテルピナ科の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説 (東海大学出版会)